

雄阿寒岳



阿寒摩周国立公園

川湯エコミュージアムセンター



北海道川上郡弟子屈町川湯温泉2-2-6
TEL 015-483-4100

阿寒湖畔エコミュージアムセンター



北海道釧路市阿寒町阿寒湖温泉1-1-1
TEL 0154-67-4100

雄阿寒岳

雄阿寒岳は阿寒カルデラの中央よりやや東に位置する標高 1,371m の成層火山で、アイヌ語でピンネシリ（「男の山」の意味）と呼ばれています。約 1.2 ～ 1.3 万年前、現在の阿寒湖よりもはるかに大きかった古阿寒湖を分断するように形成されたと言われています。いま現在は静穏状態ですが、かつて火山活動が行われていた様子が山頂部の小火口跡などからもわかります。

日本百名山にも雌阿寒岳とともに選定されており、全国から登山愛好家が集まる名山です。そのため、登山口の駐車場は混雑していることもあるため、無理な駐車はせず、国道 240 号線沿いの滝見橋横駐車場を利用することをオススメいたします。

登山口→五合目

登山口から湾を周り、阿寒湖の唯一の流出口にかかる鉄網の橋を渡ると本格的な登山道のスタート。

歩き始めて 10 分ほどで太郎湖が出迎えてくれ、さらに 10 分ほどで次郎湖が見えてきます。美しい湖沼に目を奪われがちですが、実はここからが難関。

なかなか展望がきかない針葉樹林の急勾配を登って行くと、二合目付近では岩場の隙間から冷風が出てくるスポットがあり、休憩にピッタリです。

そこから三合目以降も急登が続き、砂利の多い地面も出てくるため、足元にも注意が必要です。そしてダケカンバからハイマツへと樹種が変化し、一気に視界が開けると五合目に到着します。

五合目→山頂

五合目まで登りきればあとは難所もなく、勾配もゆるやかになります。七合目まで登ると阿寒湖温泉を見下ろすことができ、八合目は休憩にちょうどいい広場となっています。

山頂に近づくとつれ、高山性の植物が多くなり、足元も岩場に。九合目付近では左手に火口跡、右手遠方にはひょうたん沼が小さく見えます。

岩場を登るといよいよ山頂へ。ペンケトーとパンケトーが眼下に広がり、その奥には屈斜路湖と藻琴山が望めます。後ろを振り向くと火口跡の向こうにそびえ立つ雌阿寒岳と阿寒富士が一望できます。

太郎湖

阿寒湖の唯一の流出河川・阿寒川は実は太郎湖を経由して流れています。湖岸周辺は火山岩の瓦礫と深い森林に覆われているため、登山道沿いからしか見られない湖です。

太郎湖にはコイが生息しており、産卵期の 7 月には 60cm ほどの大きな固体が見られることもあります。

常時、水が流出入しているため、冬期も凍結せず、スノーシューを履いて雪景色の中の太郎湖を見ることもできます。



次郎湖

次郎湖は流入・流出河川がなく、地下からの湧水などが溜まっている小さな湖です。

周囲はトドマツを中心とした針広混交林が広がり、秋には深緑のトドマツと、赤や黄といったカラフルな紅葉のコラボレーションを楽しむことができます。

川からの流れはないものの、常に水が湧き出しているため、太郎湖と同じく凍結せずに年中静かな湖を楽しむことができます。



ひょうたん沼

九合目付近まで登ると、右側の遠方に深い森に囲まれたひょうたん沼が見えます。その名の通り、ひょうたんのようにくびれた形をしている小さな沼です。

登山道から見下ろすと、人が立ち入れないように見えますが、実は釣りも楽しめるスポット。アメマスやニジマスが生息する淡水湖です。



雄阿寒岳で見られる花



イワウメ
(6～7月)



ウコンウツギ
(6～7月)



コケモモ
(6～7月)



コメバツガザクラ
(6～7月)



チマヒョウタンボク
(6～7月)



トリアシショウマ
(6～7月)



ハクサンチドリ
(6～7月)



ミネズオウ
(6～7月)



ミヤマハンショウヅル
(6～7月)